

農村開発・環境保全

ゴム樹液採取で、月3000ペソの定収入実現 - 7年前に植えたブラクールのゴムノキ -

7年前の三井物産環境基金助成3年継続事業の成果から

2009年10月に始まったブラクールでのアグロフォレストリー事業、実際にゴム苗木を植えたのは、乾季が終わった2010年6月頃です。

7年余りが経過して、38世帯各1ヘクタール分のゴムノキから、樹液(ラテックス)を採取できるようになりました。キロ当たり30-35ペソで、毎月80-100kg収穫できるため、月収は2400ペソ-3,500ペソになります。

かつては、山腹の畑で4か月に一度収穫できるコーンが唯一の収入源で、月平均収入は500ペソ程度(米10kgは約400ペソ)で、月50ペソの授業料支払いも滞りがちだった住民が、今その5倍から7倍の安定した収入が保証されるようになりました。



マジッド・ウンゴットさんの収穫作業。

ダツ・サルニさんの息子イグメさんのゴム林と収穫作業



低い位置での作業のため、女性にもできるラテックス採取(ウンドイさん)

樹木作物の栽培は土壌流出も抑えて、樹間のコーンや根菜類の収穫量も増えています。6年、7年の間、あきらめずに手入れを続けて得たまさに「年金」プロジェクトの成果です。同時に植えた在来種も、一部薪用に伐採した住民がいたと聞きましたが、大多数は近い将来、熱帯林修復に寄与することと期待しています。

三井物産環境基金助成3年継続事業の最終年、タシマン村ラムズエルのアグロフォレストリー完了

昨年ドゥテルテ大統領が就任して以降、特に、戒厳令が出た今年5月末以降は、タシマン村周辺は治安がよくないということで、昨年10月に開始した3年目の事業地域ラムズエル地区にはついに一度も足を踏み入れないまま、この9月末に事業期間が終了しました。

苗木手配から、整地、定植、手入れの作業はもちろん、理念と技術研修もすべてPFPのニックさん、ビビアンさんに指導、管理を委託していて、メールで随時状況を確認してきましたが、やはり、受益者から直接植えた苗木の成長ぶりなど聞けない、写真も撮れないもどかしさがありました。現地モニター、事業報告詳細は年明け以降に譲ることにして、以下、PFP撮影の1年目のシエテ、2年目のタケヨンの苗の写真のみお届けします。



1年目シエテのバナナ。既に毎月収穫し、食用と換金用に使っています。

定植後2倍ほどに伸びた2年目タケヨン地区の在来種ラワン。

雨さえ止んでくれたら・・・。長雨・豪雨による道路寸断で、苗木搬入遅れ(ボルール)

前90号でもご報告のように、数年前から一部地区でモデル事業として実施してきたボルールのアグロフォレストリー事業、今年は緑の募金交付金を受けて、3地区30ヘクタールで実施しています。

対象として選ばれたのは、ボルールでも周縁部の急傾斜地が多い地域で、今年の雨期は長いだけでなく雨量が多く、事業地域に至る幹線道路は寸断され、苗木を運べなくなりました。

ボルールの農業指導者ボニファシオによると、バラングイの建築課は、公共事業・高速道路省コロナダル事務所の協力を得て、重機で補修を始めました。一方、植栽予定地の整地を終えた住民も、自分たちでできることをと、道路の穴を埋める石運びに汗を流しているそうです。しかし、これも、激しいスコールに邪魔されて思うように進まず、モーターバイクでの苗木運びも考えたそうですが、洪水後の川床のような道路に、バイクは大変危険で、とにかく天気の回復を待っているところです。

事業はすでに4か月目にはいりました。苗木の損傷を防ぐためにも、一日でも早く道路整備が進み、苗木搬入と定植が実施できることを望みます。